

越前を通過した巡見使の

姓名と回数

春 松 進 一

徳川幕府から越前に派遣された巡見使の回数に興味を持ったのは、各市町村史によってその回数が異なっていたからであった。

敦賀郡誌 一〇回
丸岡町史 一〇回
池田町史 九回
今庄町史 一〇回
越前町史 一八回
といった有り様で、またその基準としてい
る「巡見」の内容もまちまちである。

巡見の中に、私領巡見使と公料巡見使を初め、幕府からの国目付の派遣から、各藩の藩主巡見までも「巡見使」となっているのである。

各村々にとって、藩主巡見も幕府からの私領巡見使の派遣も同一視されていたのは確かだろうが、これらを一律に「巡見使」というのはどうだろうか。

私は敦賀郡誌を基本に、越前に派遣された巡見使の回数を考えてみた。

丸岡町史では寛永一〇年より天保九年までの一〇回となっており、

敦賀郡史では元和三年より天保九年までで一〇回となっている。

今庄町史でも一〇回説となっており、飛騨国大野郡史では、天料治下一七七年の間に一四回となっており、

池田町史では、享保元年・享保十四年・◎宝暦十一年・宝暦十四年・安永二年・◎寛政元年・文化十一年・◎天保九年・弘化二年(◎は公料御巡見)の九回

越前町誌では「三代將軍家光の時に寛永十一年九月・十三年・十四年・十五年・十八年・慶安三年の六回、四代將軍家綱四回、五代綱吉から十二代家慶までは一代一回、合計十八

元和三年	渡辺 凶書助	永井 監物	牧野 清兵衛
寛永一〇年	桑山 左衛門佐	徳山 五兵衛	林野 丹波
寛文七年	甲斐 喜右衛門	神保 四郎右衛門	鳥居 権之助
天和元年	大関 勘右衛門	中根 左兵衛	内藤 十之丞
享保七年	島田 藤十郎	高井 猪右衛門	寛野 兵衛
宝永二年	鳥居 権之助	筑紫 宇兵衛	天野 伝兵衛
延享三年	大久保 七兵衛	前田 半十郎	山岡 五郎作
宝暦十一年	依田 金十郎	堀田 猪右衛門	松浦 右衛門
寛政元年	筑紫 従太郎	大久保 長十郎	堀田 右衛門
天保九年	木下 内記	石久保 織部	寛堀 新太郎

回である」となっている。
 一代一回の定めから前記の表を將軍襲封の
 年と対比したものを作ってみた。

將軍名	襲封年月日	施行年
1 家康	慶長8年2月12日	元和3
2 秀忠	慶長10年4月16日	元和10
3 家光	元和9年7月27日	寛永7
4 家綱	慶安4年8月18日	天和元
5 綱吉	延宝8年8月23日	宝永7
6 家宣	宝永6年5月1日	
7 家継	正徳3年4月2日	
8 吉宗	享保元年8月13日	
9 家重	延享2年11月2日	
10 家治	宝暦10年9月2日	
11 家斉	天明7年4月15日	
12 家慶	天保8年9月2日	

七代將軍家継の代に当たる巡見使名が敦賀
 郡誌には記載がないのである。家継が幼少で
 かつ病弱であり、在任期間が短かったため、
 巡見使の派遣は行われなかったのだろうか？
 ところが当松岡町に存在する「申三月」発

春松 越前を通過した巡見使の姓名と回数

行の「丹生・坂井・大野・吉田郡御泊御休村
 方申渡」が、どうも正徳六年に該当するよう
 に思える。正徳年間に巡見使の派遣は行われ
 たのだろうか？ それは私にとって何年も疑
 問に感じていたことだった。

その後、越前町の糸生博章氏のご指導を戴
 き、国目付の存在を知り、巡見使とされてい
 るものの中には、国目付や藩主巡見なども含
 まれていることを知った。また公料巡見は、
 必ずしも私領巡見とは同一年には行われな
 かったことも知った。

その結果、丸岡町誌では公料巡見と私領巡
 見が別個に数えられていること、池田町史で
 は藩主巡見が含まれていること、越前町史で
 は国目付が含まれていることが分かった。

それで、私領巡見使と公料巡見使の氏名が
 分かれば、巡見の回数が確定するのだろうか？
 思った。徳川実紀をじっくりと調べ上げれば
 分かるだろうとは思ったが、手元に実紀がな
 いのと、膨大なページ数に恐れをなして、徳
 川十五代史を索引代わりに使おうと思った。

だが、十五代史でも実紀でも公料巡見使名
 の記載はないのである。

次に市町村史の中の丸岡町誌と永平寺町史
 に記載があるのを発見、国事叢記にも記載が
 あることを教えられたりして、公料巡見使名
 が確定していったが、手元にあった「飛騨国
 大野郡史」に延享三年以後の巡見使名が記載
 されているのを発見し、それによって正徳二
 年以後の公料巡見使名が確定した。

国事叢記によって享保二年の「西尾四郎左
 衛門」が巡見使だと思っていたのが、越前史
 略によって加賀藩の使者であることが判明し
 て、その結果享保二年の公料巡見使名がまた
 また不明になってしまったり、享保二年の私
 領巡見使名が、徳川実紀と市町村史とは異
 なっていて、中央で発表されている論文等も
 徳川実紀説をとっている（その後の調査で直
 前に変更になったことが判明）紆余曲折の結
 果、次のような巡見使名の確定を見た。

各市町村史などで人名の異同がはなはだし
 く、「寛政重修諸家譜」によって氏名の確定
 をしたが、「左衛門」と「右衛門」、「伊右
 衛門」と「猪右衛門」といった誤記のほか、
 「寛」が「一見」となっているもの、「勘」と
 「助」の誤記といったものなどが、たった四十

八名の中にも数多く見受けられた。
 また元和三年に行われたとする「渡辺図書 前の人名は、残念ながら私の力では確定でき
 助・永井監物・牧野清兵衛」の三名の巡見は、なかった。
 寛政重修諸家譜によると、越前への派遣は疑
 (点線以下は公料巡見使)

施行年	正使	副使	副使
寛永10	桑山 左衛門佐一直	徳山 五兵衛直政	林 丹 波勝正
寛文7	甲斐庄喜右衛門正親	神保四郎右衛門忠利	鳥居 権之助忠以
天和元	大関 勘右衛門増公	中根 左兵衛正武	内藤 十之丞忠広
宝永7	島田 藤十郎守恆	高井 作左衛門端清	寛 助兵衛為勝
享保2	鳥居 権之助成豊	小菅 伊右衛門正親	天野 伝兵衛規重
延享3	大久保江七兵衛教平	筑紫 宇兵衛通門	山岡 五郎作景之
宝暦11	依田 金十郎恒信	前田 半十郎玄昌	松浦 猪右衛門備
寛政元	筑紫 従太郎千門	大久保 長十郎忠救	堀 八郎右衛門直安
天保9	木下 内記	石尾 織部	寛 新太郎
正徳2	黒沢 直右衛門高室	久保田 新助政尹	伊藤木工右衛門
正徳6	匂坂 権九郎	奥山 又三郎	磯田 武大夫
享保2	服部 藤九郎	窪田 忠藏繁清	白戸 彦八郎政宣
延享3	武藤 弥太夫	平山 清藏義建	熊谷 次郎兵衛直定
宝暦11	比留間助左衛門正興	林 宗三郎	工藤 八右衛門
寛政元	本目 兵左衛門	中川 次左衛門	阿久沢 弥平次義守
天保9			

以上のごとく、私領巡見は九回、公料巡見は六回が確定されたが、それとても私の力ではおぼつかなく、諸先生方のお力添えがあつてやっとここまで辿りついた感がある。
 まだ不完全な表で正使・副使の別や名乗も不明な点が多く、誤りも多々あることと存じます。お気付きの点など御教示いただければ幸甚です。